

福島県における小麦「さとのそら」の栽培法

(中通り・浜通り地方)

「さとのそら」の特徴

- ◆ 日本めん用に適した小麦品種
- ◆ 成熟期は「やや早」
(「きぬあずま」よりやや早い)
- ◆ 茎数や穂数が増加しやすい
→適切な播種量と施肥体系での管理が重要!
- ◆ 穂が褐色
→目視による確認の他、出穂後の積算気温から収穫適期を判断!

生育量・収量の目安

目標収量	500kg/10a
稈長	80~90cm
穂長	8~9cm
穂数	550~600本/m ²
着粒数	23~28粒/穂
千粒重	39~42g

基本的な栽培法

- ◆ 播種法 (ドリル播き)
条間: 20~30cm
播種量: 8kg/10a
- ◆ 施肥量 (10aあたり)
基肥: 窒素3~4kg、リン酸10kg、カリ10kg
追肥: 窒素10kg
- ◆ 土作り (10aあたり)
石灰: 80~100kg
堆肥: 1.0~1.5t
ようりん: 30~40kg (黒ボク土の場合)

月	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	
旬	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	
生育ステージ	出穂期				幼穂形成期			出穂期		成熟期		
管理作業	ほ場準備 施肥		播種 土壌処理型除草剤散布		麦踏み 1回目	麦踏み 2回目	追肥	赤かび病防除		収穫		
生育・作業	生育の目安		生育の目安		生育の目安		生育の目安		生育の目安		生育の目安	
	播種40日後の生育状況		越冬期間中の生育状況		幼穂形成期の生育状況		成熟期の様子		早すぎる ← 収穫適期 → 刈り遅れ			
管理のポイント	苗立数の確保			茎数の確保・湿害防止				病害虫の防除		適期収穫・丁寧な乾燥		
	ほ場準備 ◎排水対策 ・ほ場周囲に排水溝(明きょ)を設置 ・ほ場内に弾丸暗きょを施工 ◎土壌改良 ・散布量目安: 石灰80~100kg/10a ・小麦の適性pHは5.5~6.5程度のため、酸度矯正が必要である			施肥体系 「基肥をやや抑え、追肥重点型の施肥体系で栽培することで収量が高まる」 ◎中通り ・基肥: 3kg(N成分)/10a ・追肥: 10kg(N成分)/10a ◎浜通り ・基肥: 4kg(N成分)/10a ・追肥: 10kg(N成分)/10a ※追肥時期は幼穂形成期頃(2~3月)				赤かび病防除 ◎防除回数 3回(最低でも2回) ◎防除時期 1回目は開花期頃(出穂期の7~10日後) 2回目以降は、前回防除の7~10日後		収穫 ◎機械収穫開始の目安 出穂後の積算温度900°C、子実水分30% ※穂が概ね褐変し、穂首がやや湾曲する時期 ※子実に爪跡が少し残る程度の硬さ		
	播種 ◎播種時期 中通り: 10月中下旬 浜通り: 10月下旬~11月上旬 (晩限11月中旬) ◎播種量(10aあたり) 中通り: 8kg 浜通り: 6~8kg ※浜通りで10月下旬に播種する場合は6kg/10aとする(茎数過多の防止)			麦踏み 1回目: 分けつ始めの4葉期頃(12月頃) 2回目: 幼穂形成始期頃(1~2月頃) 越冬前の踏圧 → 耐寒性の強化 → 徒長の抑制 越冬後の踏圧 → 早期の茎立ち防止				乾燥・調製 ◎乾燥機への張り込み 子実水分30%以上の場合は、40°C以下の低温で乾燥を開始し、子実水分が下がってきたら、送風温度を上げて乾燥させる ◎仕上げ子実水分: 12.5% ◎調製の篩目: 2.5mm(推奨)				